



紀 宝 町

議会だより

第 31 号

平成26年 9月1日 発行

平尾井踊り

in 織姫夏ものがたり (中能登町)



議 会 日 誌

平成 26 年 4 月 ~ 6 月

- | | | | |
|---------|--|---------|---------------------------------|
| 4 月 2 日 | 南牟婁郡交通安全対策協議会 (御浜町) | 6 月 2 日 | 全員協議会 |
| 1 5 日 | 三重県町村議会議長会理事会及び県施策説明会 (津市) | | 熊野川流域対策連合会理事会及び総会 (新宮市) |
| 1 6 日 | 道の駅織姫の里なかのと竣工式 (中能登町) | 6 日 | 近畿自動車道紀勢線 (熊野市~新宮市間) |
| 1 8 日 | 三重県総合博物館開館記念式典 (津市) | | 建設促進期成同盟会通常総会 (まなびの郷) |
| 2 1 日 | 一般国道 42 号紀宝バイパス等要望活動
(紀勢国道事務所・三重県庁・中部地方整備局・
国土交通省他) [22 日まで] | | 熊野川河口大橋建設促進議員連盟理事会及び総会
(新宮市) |
| 2 8 日 | 議会運営委員会
平成 26 年第 1 回臨時会 | | 熊野川河口に橋を架ける会理事会及び総会 (新宮市) |
| 5 月 1 日 | 第 85 回紀南地区メーデー (熊野市) | 8 日 | 2014 年原水爆禁止国民平和行進 (紀宝町) |
| 1 2 日 | 自治体議員研修 (津市) | 9 日 | 紀南環境衛生施設事務組合議会臨時会 (新宮市) |
| 1 3 日 | 国道 169 号線改良促進連絡協議会通常総会 (熊野市) | 1 0 日 | 議会運営委員会 |
| | 熊野尾鷲道路建設促進期成同盟会通常総会 (熊野市) | 1 2 日 | 環境保全対策特別委員会 |
| 1 4 日 | 議会運営委員会 | 1 7 日 | 第 2 回定例会 第 1 日目 |
| 2 6 日 | 三重県町村議会議長会理事会 (津市) | 1 8 日 | 第 2 回定例会 第 2 日目 |
| 2 7 日 | 町村議会議長・副議長研修会 (東京) [28 日まで] | 2 2 日 | 尾鷲市制 60 周年記念式典 |
| 2 9 日 | 教育民生常任委員会 | 2 5 日 | 議員研修 (北海道土川農業試験場) [27 日まで] |
| | | 3 0 日 | 知事と町長との 1 対 1 対談 |

6月定例会 一般質問

(要約)

榎本 健治 議員



- ・正しい日本地図
- ・教育関係
- ・スポーツの振興
- ・放課後児童クラブ

正しい日本地図

議員

近年、わが国の領土、領海問題がいろんなところで顕在化しております。そういった状況下において、子どもたちに我が国の領土・領海をしっかりと認識してもらう教育が重要である。現在学校の授業で取り上げられる日本地図は、都道府県名を覚えるためには、決して悪いものではないと思いますが、沖縄や、北海道を別表記すると、本来の日本の国土が分かりにくく、さらに離島などの表記は難しいのが実情でございます。加えて我が国は海洋国家で

平成26年第2回紀宝町議会定例会は6月17日に開会しました。第1日目は、初めに、議長報告と各委員会委員長報告があり、次いで、町長から、第1回定例会以降の町行政各般にわたる報告がありました。その後、一般質問が行われ、第2日目の18日にわたり5人の議員が、質問に立ち、諸課題について、当局の取り組みと考え方を質しました。引き続き、議案審議に入り、教育委員会委員の任命、福祉医療費の助成に関する条例の一部改正、平成26年度一般会計補正予算並びに4つの特別会計補正予算、人権擁護委員の推薦、意見書3件を原案どおり可決しました。

あるわけです。しっかりとした領土・領海教育をしていくためには、日本全図を子ども達が、身近に見られる環境を整備することが重要と考えます。紀宝町で正しい日本地図を各小中学校へ配布し、教室掲示をお願いする次第であります。

教育長

本年1月28日付中学校指導要領解説編で、社会科の一部が改訂になり、これまでの北方領土に加えまして、竹島や尖閣諸島が我が国固有の領土であることが明記され、領土に関する教育の充実を図るよう、文部科学

省から通知がされたところです。町教育委員会としては、視覚的に日本の領域、取り分け領土・領海がよりはっきりと意識できるように教育環境の整備を図ることが大切であると考えております。当該地図の利活用も含め、効果的な指導方法の工夫改善につきますして、町教育委員会としても、前向きに検討してまいりたいと考えております。

議員

前向きに検討していくとお答えをいただいたので、費用についてですが、小学校クラス数は、特別支援学

級も含めて合計40クラス。中学校では合計14クラスで、全体で54クラス。熊本県での先進事例から1枚、約70円で計算しますと、3,780円の費用という試算で費用もかからない。新年度から取り組めるようにしていただきたいと思いますが。

教育長

町の教育委員会の会議のほうでも検討して、できるだけ早期実現をさせたいと考えております。

教育関係

議員

土曜授業について、今年度から実施していくとありますが、紀宝町の小中学校での取り組みは。

教育長

検討した結果、6月第3土曜日、9月からは毎月第3土曜日に実施する。教育委員会等で検討し、開かれた学校づくりや、より豊かな教育環境の提供などを狙いとしておりますが、課題でもあります確かな学力の

向上に向けた、授業の構築に取り組んで欲しいとお願いをしたところです。

議員

一番危惧されておりますのは、教員の方々の土曜日に関する出勤による、代休取得です。夏休み冬休み、春休みなどに代休を取得していくのか。または残業手当というかたちで支給をされていくのか。

教育長

県費負担職員は、労働基準法に基づいて、その週における勤務時間の割り振り調整をして、出来ないとき

は一ヶ月の単位で調整ということになりましたが、学校においては難しい事情がありまして、当該第三土曜日の前八週間、後十六週間の範囲で代休を取ることになっております。当日の職種別勤務の状況ですけど、基本的には、学校事務職員は出勤を命じない。養護教諭は指導の必要上、出勤を命じる。栄養教諭は命じない。町費負担の学校支援員は、指導上必要で勤務していた。学校用務員は、休日という取り扱いです。

スポーツの振興

議員

平成33年三重国体は、平成25年度から順次開催市町が選定をされています。現在、開催地検討中の競技が15競技ございます。正式競技の誘致について、紀宝町としての考え方は。

教育課長

日本体育協会では大会施設基準を定めております。大会施設基準を満たす施設や、選手をはじめ観覧者、応援団等のための宿泊能力も、会場地選定の判断基準となっていることから、当町にある既存の施設では、会場地としての基準を満たしていない項目が多く、選定されるのが難しい状況となっております。

議員

国体の正式競技の誘致は、紀宝町では厳しい現状があります。一方で公開競技であるグラウンドゴルフは、この地域で競技者が多いというメリットもあります。誘致について伺いたいし

ます。

教育課長

公開競技は、正式競技を開催しない市町を優先として、市町と競技団体の意向が合致すること。実施する公開競技の普及、推進が図られる市町であることなどがあります。グラウンドゴルフは、当町でも実施しており参加人員が多くございます。熱心な競技者が多いことから、グラウンドゴルフを会場地として、希望していききたいとも考えています。

放課後児童クラブ

議員

子ども、子育て支援、支援制度の昨年度ニーズ調査は、どのような声があったのか。

健康福祉担当理事

既存のサービス、保育所、幼稚園、学童保育などの時間の延長や、休日の実施など利用時間について。また子どもが放課後安心、安全に過ごせる場所をできるだけ住んでいる地域、学校単

位で実施していただきたい。サービスの供給体制の整備、充実を図って欲しいという意見が主なものでした。

議員

学校で空き教室のある状況下、教室を貸し出している、ただき、運営については、プロ集団である福祉課のほうで、方法を考えていただいて、放課後児童クラブについて実施できないのか。

教育課長

今後は少子化等の影響により、空き教室が増えていく傾向になるかと思っております。空き教室の活用は学校とも調整し、教育委員会とも検討を進めていきたい。

議員

今後は、できないという理由を述べるじゃなくて、こうしたらできるという方法に考え方を変えていただいて福祉課とも併せて、協議いただきたいと思います。

※榎本議員の一般質問については、本人のホームページに掲載しています。

(<http://www.enomotokenji.com/ipan.htm>)





西村 喜久男議員

- ・ごみ問題について
- ・薬物対策について
- ・自死対策について

ごみ問題

議員

県は、ごみを利用した固形燃料RDF発電施設の運用を平成32年に停止する予定です。今後ごみ処理についての検討が必要と思われる。

ごみ減量化についての計画目標と取り組み状況はどのようになっていますか。

環境衛生課長

ごみの再資源化を進め、燃料ごみの減量化に努めるため平成28年度の目標値と

いたしまして、資源ごみ収集量が898t、燃料ごみ収集量が1870tとなっております。町としても分別の徹底を図り、ごみの資源化を推進するため、町広報紙等で周知を行っており、また各種団体が開催する会合等においてもご協力をお願いしているところです。

議員

固形燃料RDF発電施設の問題もあります。広域での取り組みも必要だと思いますが、どの様になっていますか。

環境衛生課長

熊野市（紀和町部分のみ）、御浜町、紀宝町の3市町で組織しております南牟婁清掃施設組合では、三重県環境保全事業団へ検討資料の作成を依頼しており現在、一案として、既存施設の更新、二案、既存施設の継続利用、三案、民間処理委託の3つの案の中から費用効果等の調査をしております。それに基づいて検討を重ねていきたいと思っています。

議員

地元企業のバイオマスボイラー施設の燃料としての

取り組み状況はどのようになっていますか。

環境衛生課長

バイオマス施設で処理していたくには、位置づけや、法的な手続き等クリアしなければならぬ点が多々あります。現在、県の見解としてRDFは一般廃棄物として位置づけされており、運搬や処理施設などにおきましても、廃棄物処理法が適用されます。現在は、バイオマスボイラーの燃料として使用することは困難と考えます。

議員

一般廃棄物ではなく燃料として位置づけするように、3市町で話し合っていたく、県のほうに強く要望していく事が必要だと思います。

環境衛生課長

現在、協議を行っておりますが、引き続き県のほうに要望し、事情等を理解してもらおうように努めてまいります。

町長

いろんな選択肢を踏まえるなかで、南牟婁清掃施設組合で議論するなかで今後

の方向性を出していただきたいと思っています。清掃施設組合等における協議について議会の皆様方にも報告させていただく中で、ご理解いただけるよう進めていきたいと思っています。

薬物対策

議員

最近も芸能人の薬物犯罪がマスコミで取り上げられ問題になっています。昨年の資料ですが、厚生労働省は脱法ハーブなどとして売られている脱法ドラッグの使用経験を中学生に尋ねた初の調査結果を公表しております。全国5万人のうちシンナー遊びの283人に次いで120人の中学生が経験ありと答えたそうです。現在、学生の喫煙、シンナー遊び、脱法ドラッグ等の事例の報告はどの様になっていますか。

教育課長

ご指摘の問題行動等が発生した場合は迅速に電話等にて各小中学校より町教育委員会へ状況報告がされています。

三重県教育委員会からの依頼により問題あるなしにかかわらず、毎月、各小中学校から町教育委員会へ報告があります。通常の三重県教育委員会からの依頼がある問題行動に関しては公表していない状況で、町においても県に準じて公表していません。

自死対策

議員

日本では年間約3万人の人々が自らの手で命をたっており、また、未遂者数は自死者の10倍にもほるそうです。少しでも防止できないかと思ひ質問させていただきました。紀宝町の現状はどの様になっていますか。

健康づくり推進課長

人口10万人当たりで比較しますと、死亡率は紀宝町・三重県・全国において、平成22年は町32・6、県19・3、国23・4、平成23年は町32・6、県19・8、国22・

平成24年は町16・3、県20・4、国21となっております。

紀宝町の自死者数については、平成22年4人、平成23年4人、平成24年2人、となっております。

議員

自死対策の取り組みと、活動状況はどのようになっていますか。

健康づくり推進課長

具体的な取り組みとしては、正しい知識の普及、啓発と考え、平成24年12月号の広報きほうで、自死の現状や心の病気についてきちんと理解し、一人ひとりが自死予防について考えていただけたらとの思いで、特集を組んでいただきました。またメンタルパートナーは、悩んでいる人に気付き、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ見守る人です。紀宝町においてメンタルパートナーの養成研修を平成23年度から平成25年度までに169名の方に受けていただいております。平成26年度も養成研修は継続していきます。この方々が身近なところで、活躍して

くださることを期待しております。

議員

残された方の心のケアについての取り組みはどのようなになっていきますか。

健康づくり推進課長

自死遺族へのサポートはとても大切なことだと考えており、大切な方を亡くされ、とても不安定な環境におかれていると思います。しかし、関わり方も大変難しいです。相談があれば、対応できる体制はとっております。自死遺族サポートガーベラの会や、自死遺族の集い、わかち合いの会をご紹介します。行政だけでなく、支援団体とも連携しながらケアについての体制づくりが必要と考えております。



高垣 操男 議員

・鳥獣対策について

鳥 獣 対 策

議員

鳥獣対策について質問いたします。現在の町内における被害状況をお願い致します。

産業基盤整備担当理事

町内における被害状況についてでございますが、農家の方々と会議や打ち合わせなどで、お話をさせていただいた際に必ずという程、獣害対策というのが出て参ります。小規模なものも含

め町内全域で相当な被害が出ているとの推測をしております。平成25年度における被害状況につきましては、役場で受理したのは7件、延べ面積2,834アールの農地に被害があったと推計しています。被害金額は県に報告させていただいた分で約932万円です。

議員

是非もっとしっかり調査をしていただいて、今まで以上に具体的な対策を立てて、進めていただきたいと思います。また捕獲後の処分についても対策を考えていくべきではないか。

産業基盤整備担当理事

捕獲後の鳥獣の処分につきましては、南勢、中勢地方では、ジビエ料理として利活用されているというところもあります。痛みが早い。ため、それらの食肉加工センターまで運ぶ時間的なものとか、撃った場所によっては、なかなか外に運びだせないという問題等も色々あるようです。これからは、それらの利活用について調査研究を進めて参りたいというふうに考えております。



防護柵の補助

議員

次に防護柵についてお伺い致します。町内の田んぼや畑の電気の防護柵は、国か県の補助でやっているのですか。

産業基盤整備担当理事

防護柵の補助につきましては、国の制度を活用し、材料費について支給をさせて頂いていただいております。対象となりますのは隣接する3戸以上の農家が一体的に設置をする場合が対象という事でございます。

議員

個人の方が家の畑で作るときは対象外ということですね。

産業基盤整備担当理事

家庭菜園については補助対象にはなりません。

議員

今までの生活の中で自分の食べる野菜は自分のところで作っている方がかなり多いと思います。その人達が収穫時には猪や鹿にとられてしまうのが今の現状で

はないかと思えます。近隣の市町においては獣害対策事業補助制度があると聞いております。紀宝町においても申請があれば、ある程度の補助ができないものか。

産業基盤整備担当理事

国庫補助事業、補助制度の対象とならない農地につきましてはは町単独事業で補助させていただいている。家庭菜園等の農地については、助成をさせていただいたのがありませんので、ご理解をいただきたいと思います。

議員

考える余地はないですか。

町長

鳥獣害の対策については、ご心配いただきまして本当にありがとうございます。町のほうとしても、これについては積極的に取り組んでいかなければならないという思いを持っております。今、理事のほうからお話をさせていただきましてよくに補助的な事業については広範囲にわたりますので、補助をしつかりいただくなかで対策をして、その中でも補助対象に乗らない部分

については、これは乗らないから放っておくというのは、やはり問題もございしますので、やはりそういう農地を守るといふ観点からも町単独でも支援をして取り組んでいこうということで、今も進めさせていただいてるところでございます。要するに家庭的な部分について、色々取り組みをどうかというお話ですけれども、家庭的な部分については、いろんな状況っていうのが考えられるわけでございまして、また町の中とか山の中とか、色々な状況もございします。大きな要旨としての、やはりしっかりと守っていくことが大事だというふうに思っています。そのことについては今、最優先課題として取り組みを進めているところでございます。家庭的な部分については色々なご意見等もあるうかと思えますので、ご意見をいただく中で調整しながら、今後の検討課題にさせていただきます。いずれにしても、この獣害から農業を守るこ

とが優先であります。さらに生きがいとして耕作されている方もいらっしゃるわけでございます。町としても、その家庭的な菜園の部分については等の被害についてばかりません。全町的にお互い意思疎通ができるように、皆で力を合わせていけるような形にし、制度的にも、今後町民の皆さん



方のご意見を拝聴するなかで検討していく必要があるかなというふうに思います。

※この他に学校給食における食物アレルギー対策について、町として大水害の教訓を後世にどのように伝えていくのかの質問がありました。



原 章三議員

・消防団員の報酬、出勤
手当の消防庁次長通告
について

・農業委員公選制
廃止について
他

紀宝町の実態としては年額報酬で、団長87,000円、副団長62,000円、部長29,000円、班長27,000円、団員20,000円などと規定され、出勤手当については水火災警戒、出勤、訓練などが一回につき5,000円となっています。また団員年額報酬の全国平均では23,356円、三重県24,742円、出勤手当では全国が3,379円、三重県3,136円となっています。

議員

こういう通達が出された背景には東日本大震災によって多くの消防団員の尊い生命が失われました。また全国的に消防団員の高齢化と団員減少が続いています。当町においてもこれから出勤回数が増え、団員の方々が懸命に地域住民の生命、財産を守っていただいているのですから当然、団員の報酬を引き上げるべきではないですか。

町長

国の交付税措置のなかで、消防団員の皆さまの好意に甘えながら活動していただ

いているところですが、今後出勤手当や報酬について、近隣市町と調整しながら進めてまいりたいと考えます。

農業委員公選制廃止

議員

政府は、規制改革会議の答申を受けて、農業委員会、農業生産法人、農協の見直しをセットで行おうとしています。今、農業、水稲を

めぐる状況は、人、農地プランに基づいて農地中間管理機構設置、新たな活性化プランなど、耕作者がついていけない状況にある。特に農業委員会公選制廃止は極めて重要な問題と考えますがいかがでしょうか。今日、日本の農業を支えてきた家族的農業経営が根底から覆されようとしているなかで、農業委員会の果たしてきた役割は大きく、それが半減、公選制廃止となれば私たちの町の農業基盤が崩れる危険性がある。町長としても反対であることを表明してもらいたい。

町長

紀宝町における農業の取り組みが国の指導において適正なのかどうか、今後農業委員会、農業に携わっている方達と議論をしていく必要があると考えます。

休耕補償

議員

一昨年から大里地内で輪中堤のかさ上げ工事が始まっていますが、その際、水稲耕作者に対し休耕補償がなされていない実態があります。工事着工前に耕作者、地権者、行政との間で話し合いがおこなわれたのか。

産業基盤整備担当理事

現行利用権設定をされている4筆についてお話をさせていだいたということでございます。

議員

すでに地権者に対しては休耕補償も含めた金額が支払われているわけですね。

産業基盤整備担当理事

工事の仮設に必要な土地

の所有者さんに、ご理解をいただいた上で施工業者が借地契約をおこなっていると聞いています。

議員

国は、工事請負業者に託し地権者との話し合いだけで済ませているからこういった問題が生じているわけです。改めて国交省、工事責任者、耕作者、地権者、当局も交えて解決をはかっていたきたい。

産業基盤整備担当理事

今回の事例も含め国交省に報告し、耕作者の補償について一定の配慮がなされるよう要望したいと考えます。

通学路防護柵

議員

跡田川沿い児童通学路に転落防護柵の設置については以前から要望してきましたがその後の経過はどうなっているのか。

産業基盤整備担当理事

河川管理者である県で協

消防団員報酬の 引き上げを

議員

昨年12月5日、消防団を中核とした地域防災力充実強化に関する法律が可決され、平成24年度地方交付税単価で団員、36,500円、出勤手当が7,000円となっています。しかしこの額は紀宝町の実態と大きくかけ離れています。実態はどうなっているのですか。

総務担当理事

議を進めているところで27年度以降の交付金事業で整備を進めて来年度から着手させていただきたいと考えております。

相野谷中横の土砂対策

議員

台風12号災害で相野谷中学校体育館横の土砂崩れ現場が今なお放置されている。教育現場の近くでそのまま放置することは問題だ。早急に対処してもらいたい。

産業基盤整備担当理事

各機関と協議をおこなっているところですが現在、被災箇所は採択要件に該当しないということです。今後、県に採択できないか、協議を続けてまいりたいと考えます。



平野 美津子 議員

・自然環境を生きし
守るための計画に
について

他

0歳児保育

議員

何年も町長や福祉課長と議論してきました0歳児保育の実施が決まりました。0歳児保育を希望された方々と共に喜びたいと思います。大きな声をあげることでできない、限られた方が対象であり許されれば母乳を与え母親自ら育てたいのは当然ですがそれが許されない方が安心して託せる公立の保育所の実現。受け

入れ側も来年に向けて研究していただいていると報告を聞きました。今後とも子ども達の成育環境を充実し、豊かな地域にしていけるよう、微力ではありますが、行政と共に努力してまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

自然環境

議員

町長は紀宝町は海・山・川に恵まれた素晴らしい地域であるとおっしゃっています。自然を守っていく覚悟が必要だと思っています。

町長

基本理念であります海・山・川に恵まれ、共に創造する町として、自然保護に努めてまいりたいと思っています。

議員

自然災害が起っています。自然災害とだけはいえない人為的な災害も起っています。戦後全国の山が杉・檜にされています。杉・檜は、上辺を根っこが這うので倒れ

やすい、また林道が山を切り崩すので崩れやすくなっている。紀宝町におきましても、「40年くらい前は、家の下でうなぎが釣れたのに輪中堤の工事で水の流れが変わって干上がってしまった。生息していた生き物が全部なくなっている」と町民が訴えている。町内には絶滅種の植物もたくさん生息しているというお話です。公共事業でコンクリートで固める前に調査研究し、この地域を守っていくことが豊かな子どもを育てることに繋がるのではない

町長

林道の整備は森林活動をしていく上では大切なものであるという側面も根幹をなすところです。地形の状況を見ながら十分検討してまいりたいと思います。またコンクリートで固めるのは地域の安全性の向上にも繋がる部分もあるが、全体的な自然を守るという観点の中でそれぞれの地域における安全性についてもコンクリートがいいのか土囊がいいのか、しっかりと取り

組みをしていく必要がある。今後とも議員に指摘をいただきながら職員と一体となって住みよい、自然環境を整備していきたいと思っています。

議員

町長の前向きな自然を守るといふ思いをいただきました。しかしながら実際に地域の方と相談しながら関わっていると結論として、ひとりの意見だけではできないと言っています。研究して一人でも正しいことを言っているのであれば考えていただきたい。

町長

はい分かりました。郷土を愛している、郷土を誇りに思っている人もたくさんいるわけです。これから子々孫々に豊かな自然を引き継いでいくのが使命であると思っています。

新宮紀宝道路

議員

七月上旬に国土交通省の説明があると報告されていますがどのような観点でどのようなお話ですか。

企画調整課長

事業概要や今後の進め方の説明の予定です。

議員

国交省のホームページを見ますと以前にも話し合いをしたとありますが、どんな話をしましたか。

企画調整課長

ルートのなものは、以前、住民説明会でされているルートより詳細なルートは報告されていません。特段皆様にお知らせすることじゃなくて事務的なことです。

自主防災の情報の共有

議員

それぞれの自主防災でやっていることを全町民に知らせることができないか。

総務担当理事

自主防災組織の情報を共有できる体制について検討させていただくと共に、そういう体制ができるかどうか、自主防災組織の皆さんに相談させていただきながら、進めさせていただきたいと考えております。

高岡輪中堤対策

議員

住民の方との話し合いはどのようになっているのか。

産業基盤整備担当理事

高岡地区向清水団地につきましては鮎田・大里地区と同じく、堤防の復旧と1・2メートルの嵩上げを行います。

※この他に教育長の学校教育・社会教育に対する考え方と人材育成について質問がありました。

本議会を傍聴してみませんか。



本会議では、町民の皆様の生活に関わる重要な問題について、熱い議論が交わされています。町政への理解を深めていただくためにも、皆様の傍聴をお待ちしております。

■本会議の傍聴

本会議の議事の公開の原則により、会議中どなたでも傍聴できます。

■傍聴の手続き

- 1：役場本庁舎3階の議会事務局で受付を行ってください。
先着順により受け付けています。傍聴席の定員は40席です。
- 2：議場の入退室は、会議中でも自由にできます。

■ご注意

言論に対して拍手、その他の方法により可否を表明しないでください。飲食または喫煙をしないでください。携帯電話の電源はお切りください。写真、ビデオで撮影したり、録音しないでください。

●お問い合わせは紀宝町議会事務局まで（☎0735-33-0342）



議員研修

平成二十六年 議員行政視察研修報告

○研修日程 平成二十六年六月二十五日～二十七日

○参加議員 十一名

○事務局 町長他四名

○研修場所 北海道上川郡比布町

地方独立行政法人北海道立総合研究機構

農業研究本部上川農業試験場

○研修目的

全国におけるコメ生産地では新潟につぐ生産量二位を誇る北海道であるが、これまで品種についてはあまり評価されない状況であったが、近年新種として改良された「ゆめぴりか」が全国販売ではおいしい米として高く評価されていることから、「ゆめぴりか」を誕生させた上川農業試験場を訪問し品種改良の経過調査及び北海道の水稲栽培の状況について研修をする。

「田中場長歓迎の挨拶」

最初に当場には、青木研究員がおり、紀宝町の出身ということ、ご縁がある。今回は当場に研修に来ていただき感謝をします。北海道も最近気象変動が激しくて寒かったり暑かったり、先週までは長雨が続き日照不足を心配していたが、今週に天気が回復した状況です。事前に紀宝町要覧を見せていただきましたが、大自然と歴史・伝統の豊かな町であると感じています。歴史の浅い北海道から見ると大変うらやましく思います。次に若干当場の歴史について紹介をします。一八

八六年（明治一九年）に旭川を中心に上川地域の開拓が始まり、同時にこの地域ではどのような作物が資するのという事で農作試作場が開設され、今年で一九二九年を経過と上川地域の開拓と共に歩んできた試作場である。この比布町に移って二十年が経過。開拓当初は北海道は寒いので稲作は無理との事であったが農家の方々の執念により徐々に稲作がすすめられた。一九一五年にはこの地でも育種が始まり、今年で百年目をむかえる。百年間の間には優良品種七八品種を出している。北海道は東北の品種では栽培が無理なので、早生





で寒さに強くできる品種改良をした。減反政策の実施当時は品質が悪く「厄介道米」「猫またぎ米」「鳥またぎ米」と言われ、この危機感の中で昭和五十五年から優良米早期開発プロジェクトを立ち上げ品種改良の結果「きらら397」「ゆめぴりか」の誕生に至った。

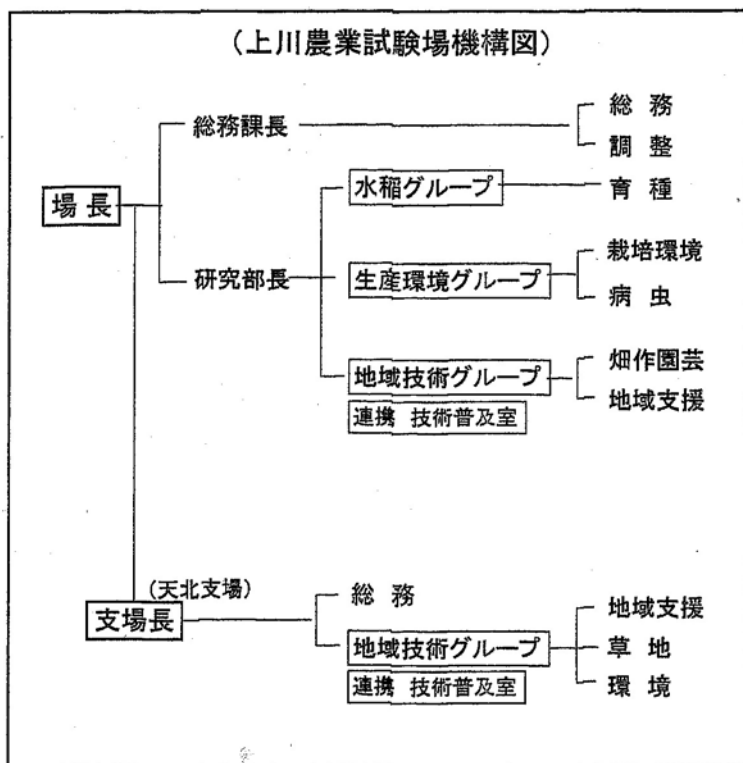
【丹野研究部長による研修】

まず、最初に組織についての説明。過去の北海道には農林の研究所が二十二施設あり、これらを一つの組織として独立法人化した。大きいのが農業試験場・水産試験場その他に工業試験場・建築研究所・林業試験場等が一つになって今年で五年目である。まだ試験場の方は県の直属が多いと思う。青森県も行政独立法人化をしている試験場は専門的にやる作物と地域の対応の二つを重ねる考え方で成立している。上川農業試験場の機構については下図の構成となっていて、昔から稲の研究を主にやってきた。対象は水稻の育種・品種改

良。生産環境グループは昔の土壌肥料と水稻栽培と病害虫の研究。地域技術グループは畑作の適応性や普及の対応をしている。下の天北支場というのは、場所は北の外れにあり酪農の研究をしている。今回は特に水稻グループと品種改良に絞って紹介された。北海道の食味米品種ということで「ゆめぴりか」はこれまで北海道で育種をしてきた内容と

現在の状況・背景と歴史的なもの。良米の品質改良。今後の方向性について説明された。最初に現況について、歴史が浅いと言うことで江戸時代から各所で試作をしたが、いい年悪い年が繰り返されていた。道奥に広がったのが中山久蔵氏が札幌の近くに「赤毛」という種を青森か函館から持ってきて、札幌の近郊で試作し、種を取り各地の農家に

(上川農業試験場機構図)



分け与え、それを契機に全道に広がった経過がある。栽培面積は十〇万〇十一万ヘクタールで生産量は六百四〇万トンで新潟につき二位である。主な生産地は空知が五万ヘクタール、上川が三万ヘクタール合わせて八万ヘクタール。現在は「ゆめぴりか」が有名になって作付けが増加している。これまで全国的に有名であった「きらら397」は減少し、広く使われている「ななつぼし」が四十五%に上昇しつつある。「ななつぼし」は一般的な炊飯米で「きらら」は粒が大きく硬いので業務用米「ゆめぴりか」は一番おいしい米として位置づけられている。

【水稲品種改良の背景】

北海道は四年に一度の割合で冷害を受けている。よって生産の不安定を繰り返していた。また昭和四十年代の米余りの時代には北海道米は売れなかった。当時の面積は約二十六万ヘクタールその後の減反政策で現在の面積になっている。当

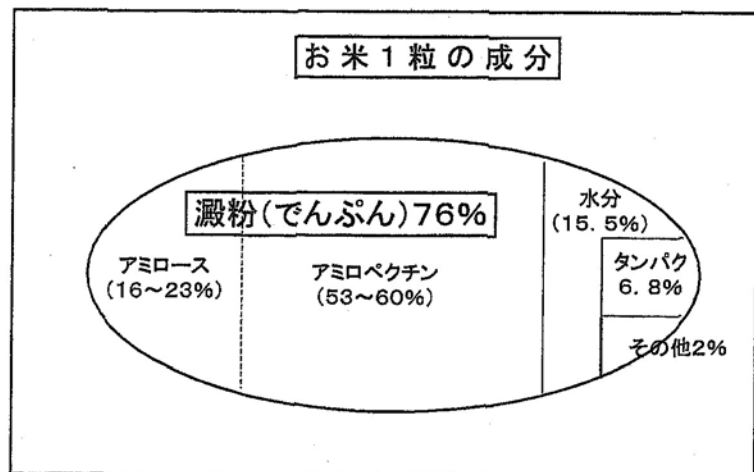
時の減反率は九十数%であった。昭和五十五年にはおいしい米を作る為には品質改良・栽培率をどうしたらよいかを課題として取り組んだ。

次に「米の成分」について。図で示すように約七六%が澱粉で。光合成で澱粉を取ったため栄養とする。澱粉はアミロースとアミロペクチンの二種類があり、餅はアミロースが主でアミロペクチンが少ない。食味を考える上ではアミロース

が低いものが粘りがでる。タンパクは窒素成分なので多くなるとおいしくならない。おいしさはかなり複雑なんです、単純に言う、アミロースとタンパク質で説明できる。三十年前の調査でアミロースが本州米に比べた結果、三%程度高かった。これがおいしくない米の原因と判明した。そこでアミ

ロースが高くなる原因を調査研究した。結果は栽培地の環境と品種が悪いとの結論となった。しかし降雨が少なく寒い環境を変えることができない、このような環境で栽培すればアミロースが高くなる。そこで低温でもアミロースが低くなる品種を作る為に品種改良を進めた。アミロースの種子を捜す場合、人手により分析すると一日三〇点程度の

お米1粒の成分



分析で効率が悪いので、分析機器のオートアナライザーを導入。性能は1時間で二〇点程度。一日では一六〇点を分析と効率を上げた。このような工夫をしながら品質改良を行ってきた。それと低温地帯でもアミロースの含有量が低くなる品種に大きく遺伝子の改良をする必要があった。

「おいしいお米とは」外観(白さ・つや)、香り、味、口あたり、粘り、柔らかさの分析による。粘りと柔らかさはタンパクの含有量に関連するので既存種の品質改良が必要であった。本州栽培の品種は日照に感応して出穂する性質があり日照が短くなると秋が近いと感じて出穂する。気象条件の違いから北海道ではこの性質をなくす品質改良を改良の過程において行ってきた。

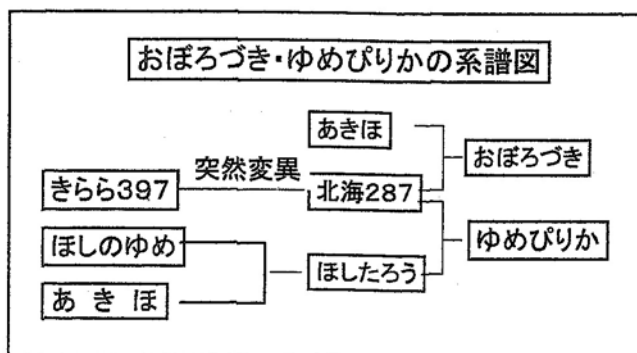
【良食味種改良】

昭和五十五年より、おいしい米を作るにはどのような事をする必要があるのかという事で①が規模拡大。②が理化学分析による選抜。

③が世代促進。④が葯培養。⑤道内外で有用遺伝子を見つけた品種改良に活用する、これが一番大事な事である。「収量」最近は一〇アール当たり五三五キログラムで全国で七位。

「耐冷性」冷水田(水温十九度・水深二〇センチ、掛け流し)で穂期の耐冷性検定で選抜。「いもち病抵抗性」前期発病した品種で新たな品種を囲み植栽し発症品種の検定。「食味評価」アミロースとタンパク質は分析機器により判定し、あらかじめ基準を定めておき、これと比較し評価。「良食味米と全国銘柄米の水準」一九八〇年の「ゆきひかり」は府県米におよばなかったが、これより以降は品種良により「きらら397」「ほしのゆめ」につづき「ななつぼし」を経て現在の「おぼろづき」。「ゆめぴりか」の誕生となり。これらの品種は「コシヒカリ」・「ササニシキ」・「あきたこまち」等の府県産米の水準に並んだ状況にある。「良食味遺伝子の由来」「ゆめぴりか」・「おぼろづき」の系譜は、この品種は培養

変異による低アミロース突然変異遺伝子であり、系譜については左図の系譜図を参照されたい。



【新品種「ゆめぴりか」の育成】

上川試験場が開発し平成二〇年二月に北海道の奨励品種に認定をうけた。「アミロース」が少なく、食味はコシヒカリ並み」新たな北海道産米のエースとして期待。五年前から本格栽培、平成二十五年には北海道全

土で一万三〇〇〇ヘクターを栽培。

【今後の展開】

北海道産米の品種別位置づけ・方向性として、「ゆめぴりか」はブランド米・「ななつほし」は一般米で「きらら397」は牛井・冷凍加工食品等の業務用米と位置づける。

【まとめ】

品質改良には科学的知見と長い時間や大きな労力と費用が必要とされる。

○育種効率を高めるには多くの材料から簡易な方法で選抜する必要がある。試食できる数は数百に限られる。科学的根拠があれば食味成分分析数は一万点できる。

○交配から品種育成まで八〜一〇年必要である。

○世代促進栽培温室・葎培養法・耐冷性選抜の掛け流し圃場・食味分析機器これら比較的大きな施設・機器とその稼働費も要する。

○三十数年前に北海道産米が売れず困っていたが、現在には需要に応えられないほど好評で。品質改良により十分な成果を得られた。

○大きな前進のため今後も長期にわたる理解を関係者から得る必要がある。

以上で会議室での研修は終わり、引き続き研究室に移動し、分析機器の見学、その後は試験圃場で冷水田等の圃場を見学し研修を終わりました。

「研修後記」今回の研修では、本町と気象環境が大きく異なり水稻栽培が不可能とまで言われていた。最北の北海道で府県米に劣らない「おいしい米」を誕生させた上川農業試験場が品種改良等研究においては先進地と捉えて当該試験場を訪問させていただき、誕生までの過程又現在の生産状況・米の成分分析と良食味米との関連等詳しく説明を頂きました。田中場長様・丹野研究部長様には感謝を申し上げます。また今日まで北海道の開拓と共に水稻栽培に執念を持って取り組んできた農家の方々、又長年研究に携わり今日の良食味米の誕生に努力された、多くの研究者の皆様には敬意を

表したいと思えます。本町においては温暖な気候に恵まれ基幹農業の一つとして九州から山形県で栽培されている品種のコシヒカリを主体として栽培しているが、近年の温暖化又品種改良研究の先進地の実態を見ると北海道が、本町を含め府県の米生産地域にとっては今後脅威となってくるのではと感じました。本町の米生産農家を取り巻く状況は他府県と同様に担い手不足等多くの課題はあるが、次世代に繋げる農業のあり方について今一度さらに考える



圃場及び施設	面積(Ha)
田	9.99
畑	7.81
建物敷地	4.83
その他	5.77
計	20.40

時期ではないかとの思いをしながら帰路についたところです。最後に今回視察研修をしました、上川農業試験場の施設・規模を参考までに記載し報告を終わります。

次回定例会の予定

9月16日（火）開会予定です。
傍聴は議会事務局で受付ています。

議会生中継について

公共施設5ヶ所のロビー等において、町議会本会議の模様を生中継していますので、議会日程をご確認のうえ、ぜひご覧ください。

- ① 役場本庁舎
 - ② 生涯学習センターまなびの郷
 - ③ 福祉センター（鶴殿）
 - ④ 保健センター（神内）
 - ⑤ 相野谷診療所
- ※放映時間については、当該施設開館時間内となりますので、ご了承ください。

インターネット録画中継について

町議会では開かれた議会を目指して、平成23年6月定例会分からインターネットによる録画中継を実施しております。映像をご覧頂くには、
◎紀宝町ホームページ↓「町議会情報」↓
「インターネット議会中継」をクリック

可決された議案（6月）

- 教育委員会委員の任命同意
・ 大前妙子さんの任命に同意しました。
- 紀宝町福祉医療費の助成に関する条例の一部改正
- 平成26年度一般会計補正予算
- 平成26年度特別会計補正予算（4会計）
- 人権擁護委員の推薦につき意見を求めること
・ 人権擁護委員に保田啓一さんを推薦することに同意しました。

意見書（6月）

- 鳥獣の捕獲促進体制強化の速やかな実施を求める意見書
- 免税軽油制度の継続を求める意見書
- 手話言語法（仮称）制度を求める意見書

編集後記

ウクライナ、シリア、イラク、イスラエル、パレスチナなど世界各地で悲惨な犠牲を伴う争乱が続く一方、航空機、客船、列車などで大きな事故が続発し、何かと暗い話題の多い昨今です。紀宝町は台風11号による大雨の影響もありましたが、例年豪雨に悩まされる梅雨は大きな被害もなく明けて、今後は自然災害もなく、豊かな稔りの秋を迎えたいものです。6月17日開会された第2回定例会は、3億4千万円弱の大規模補正予算案他が審議され、一般質問には5名の議員が登壇しました。最近各地で地方議員が不祥事で紛糾されています。「地方議員は」と、ひとくくりに非難されることには内容の齟齬もあり違和感があります。が、身を引き締め職責を全うしたいと考えます。

（文責 莊司）

「議会だより」（第31号）

編集委員

莊司 健

矢熊 達雄

平野 美津子